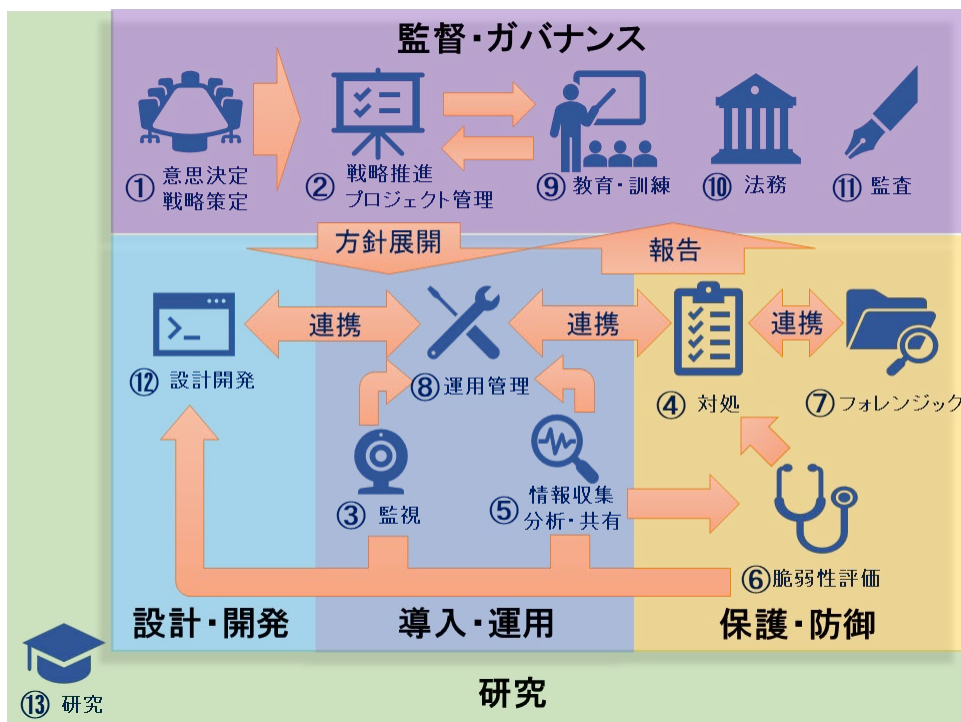


サイバーセキュリティ人材フレームワーク2026を踏まえた人材の確保・育成

- サイバーセキュリティ人材の多様な役割や技能を体系的に整理した「サイバーセキュリティ人材フレームワーク2026」並びに「同活用の手引き」を本年4月に策定・公表。
- 人材フレームワークを軸に、求人情報、教育・訓練、資格試験・演習等の情報を関連付け、体制整備・採用配置・教育訓練・キャリア形成等の場面で活用し、効率的・効果的な人材の確保・育成を図る。

サイバーセキュリティ人材が担う13の役割



13の役割ごとにタスク(T)・知識(K)・スキル(S)を整理するとともに、4段階のレベルを設定

活用
場面

目指す姿

体制
整備

限られた人員の中で担うべき役割・タスクを明確化し、選択と集中による効率的なスキル向上により、サイバーセキュリティ対策を強化

採用
配置

組織が求める人材の定義をフレームワークに沿って理解可能なものとすることで、採用や配置時のミスマッチを解消

教育
訓練

フレームワークに沿って個人や社会のニーズが可視化されることにより、要請に沿った教育・訓練メニューの強化・提供

キャリア
形成

社会ニーズの可視化により、CS人材として目指すべきキャリアが明確化され、自身が保有するスキル・知識とのギャップ分析等により、積極的・継続的なスキル向上を実施